



ネギはとても歴史の古い野菜で、原産地の中国では2000年以上栽培されており、日本でも最も古い野菜の一つです。

青ネギは初心者でも育てやすく、家庭菜園でおなじみの野菜ですが、今年は長ネギに挑戦しませんか？
品種は、サカタのタネの「夏扇4号」などがおすすめです。

「苗床づくり」

3月上旬に苗床を準備します。苗床となる場所には前もって、苦土石灰を1㎡あたり約100g散布して耕しましょう。

図1 苗床づくり

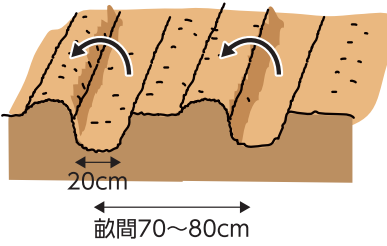


図2 植え付け

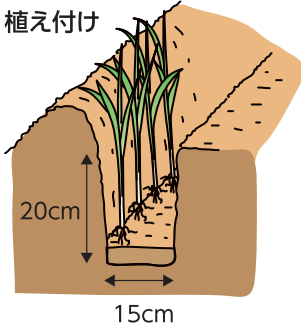
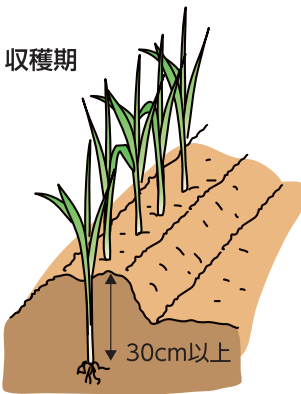


図3 土寄せ



図4 収穫期



1週間ほどおいて、石灰が土になじんだら鍬の幅(20cm程度)の浅い溝を掘り、溝1mにつき堆肥1kgとN・P・K比各10%の化成肥料(固形30号など)を100g施し、周りの土とよく混ぜておきます。畝を複数作る場合は70~80cm間隔を開けましょう(図1)。

「種まき」

種まきの適期は、春の彼岸ごろ(春分の日前後)です。

溝の全面に1~2cm間隔で種をばらまき、1cm程度土をかけます。芽が出そろったら、混み合っている部分を間引き、1ヵ月ごとに化成肥料を溝1mあたり20~30g与えます。草丈が30~40cm程度に育ったら、苗の完成です。

「植え付け」

完成した苗は、6~7月ごろによく耕した畑へ植え付けます。耕した後、すぐ植え溝を作ると崩れやすいので、ひとまず平らに

ならし、土が固まってきた所で、幅15cm、深さ20cmの溝を約90cm間隔で掘りましょう。

この溝に苗を5cm間隔で並べて立て、根元に土を掛けます(図2)。その上から、腐葉土やわらを10cmほど敷きます。この時、化成肥料は与えません。

「土寄せと収穫」

植え付けから1ヵ月たったら、化成肥料を畝1mあたり約50gまいて土寄せします(図3)。

追肥と土寄せは、この後もこまめに(1ヵ月に3~4回)行い、土に埋まった白い部分(軟白部)の長さが約30cmになるまで続けましょう(図4)。

晩秋から冬、最後の土寄せから1ヵ月ほど経ったら収穫できます。

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

生産資材のご紹介

防草や地温上昇に役立つ

黒マルチ

【各30本限定特別価格】

● 0・02mm×135cm×100m

2010円 → 1370円(税込)

● 0・02mm×150cm×100m

2220円 → 1530円(税込)

黒マルチは、おもに畑の雑草を抑制するために使います。

また、太陽光を吸収して地温を安定させる効果があり、地温が低い春先は保温に、日差しの強い夏は急激な地温上昇を抑えるのに役立ちます。他にも、大雨で畝が崩れたり、葉に泥がはねたりするのを防ぎ、土を保湿する効果もある万能資材です。

今回は、使いやすい100m巻を特別価格で販売します。この機会にぜひ、ご購入ください。

※限定本数が無くなり次第、通常価格となります

